



新納忠元物語一

伊佐市立菱刈郷土資料館 指導員 原田純一

忠元のおいたち

(新納家と島津家の関係)

新納武蔵守忠元は、新納氏の是久の流れで、大永六年(1526年)志布志(松尾城)で生まれた。令和八年(2026年)生誕五百年である。

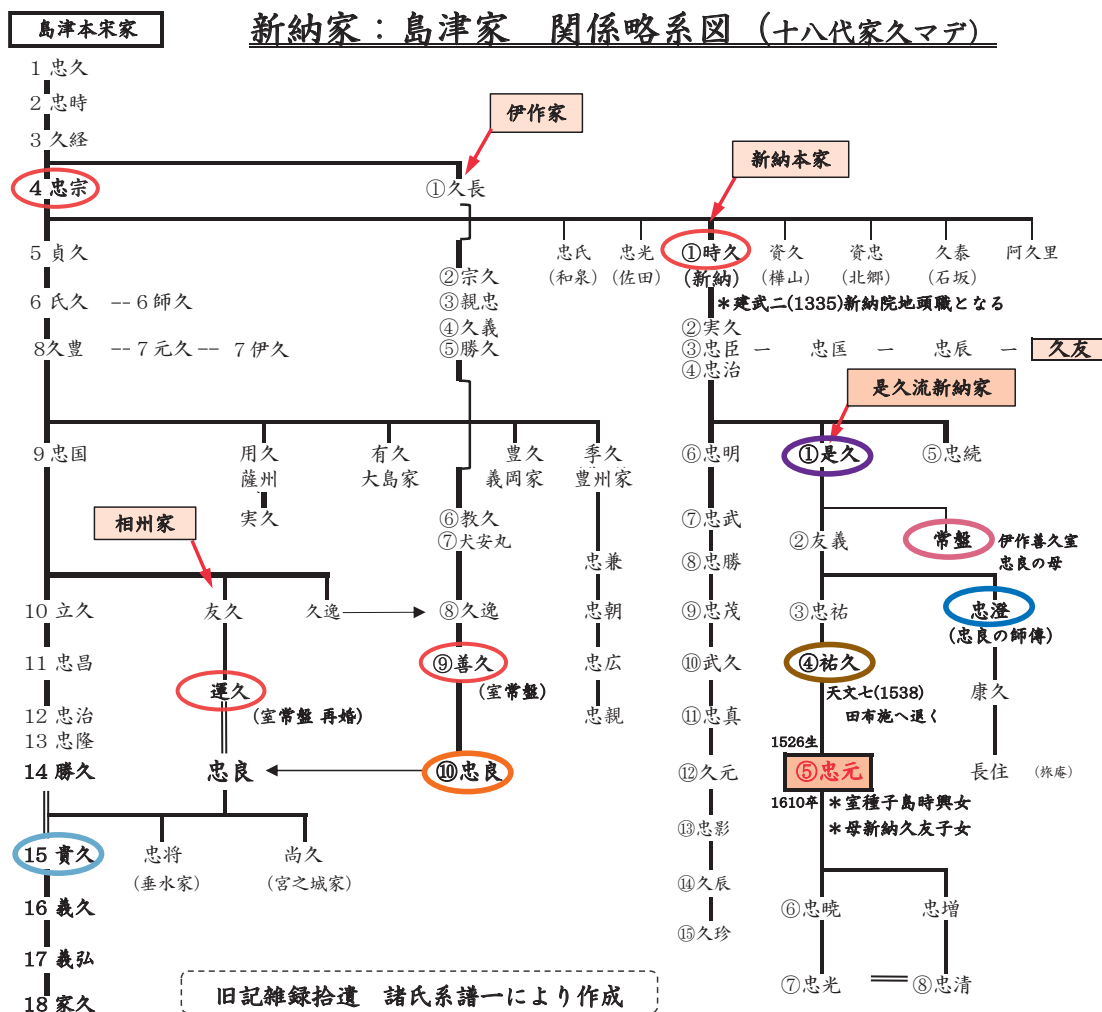
天文七年(1538年)十三才の時、戦いに敗れた父祐久に従って、田布施(現在の南さつま市)の『島津忠良(日新公)』に仕えた。忠良の母は、父祐久の大叔母で賢婦人と讃えられた『常盤』という人である。また、幼児の忠良を教育した『新納忠澄(魚隠斎)』という人は忠元の大叔父にあたる人である。

このようにして忠良の薫陶を受けるようになったことが、忠元の一生涯に大きな影響を与えることになった。忠元が、文武両道の名将と仰がれる基礎は、ここで育まれたものといわれている。

下記の略系図で分かる通り、忠元は、是久流の五代であり、忠良と深い姻戚関係にある。また、後に主君として仕える忠良の嫡男貴久は当時二十五才、貴久の嫡男義久は六才、二男義弘は四才であったので、兄弟のような交わりの中から、強力な君臣の絆が生まれたものと思われる。

☆次回は『新納家の出自』

新納家：島津家 関係略系図 (十八代家久マデ)



※参考資料…加世田市誌(下巻) 昭和三十九年発行 706ページ